



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

# 同窓会報

平成28年度 第2号  
(平成29年3月発行)

発行所  
世田谷区大原1-4-6  
東大原小学校同窓会

発行人  
野地勝彰

## 新しい同窓会へ

同窓会長 野地勝彰(二四期生)

二八年度も今月で終わります。今年度も会員の皆様からのご支援ご協力まことに有難うございました。

予定通り昨年三月で母校東大原小学校が閉校になり四月に守山小学校と統合し下北沢小学校が開校しました。東大原は既に校舎は無く更地の状態でこれから新しい校舎が建設され三〇年三月に完成の予定です。

繰り返しになりますが、下北沢小学校は新設校ではありません。両校の歴史と伝統を引き継ぐ学校です。

その意味で両校の卒業生にとつては母校です。その認識に立つて昨年四月の総会で承認いただいた通り、我が同窓会は下北沢小学校同窓会に吸収される。それに基づき、今年下北沢小学校第一期生が卒業するのに合わせ、四月には下北沢小学校同窓会を設立するべく、準備を進めて参りました。私達を中心となつて進めることにはなりません。卒業生の方達と下北小の第一期生にも参加して頂いて、関係三校の卒業生で作る同窓会にするのが本来の望ましい姿です。

まず守山の方ですが同窓会という組織は実質的にはありませんので、卒業生の代表の方達との話し合いを重ね、我々と共に下北小同窓会設立に参加して下さいることになりました。また新同窓会の評議員、理事の候補になつて頂ける方も決まりました。守山小の卒業生は全員下北小同窓会員の資格があるわけですが、新同窓会名簿を作成するに当って、出来るだけ多くの方に登録していただくようお願いしているところです。

下北小の方は第一期卒業生から代表者を出していただいで一緒に設立活動に参加してくれるよう校長先生にお願ひしています。

これで関係三校卒業生が一緒になつて下北沢小学校同窓会を設立する体制が整いました。現在同窓会の会則を作成中ですがこれについては二

ページを参照して下さい。最終案を総会で審議承認をいただくことにしております。

四月の総会はこのページに案内がありますように下北沢小学校同窓会の設立総会です。昨年までと同様に多くの会員の方に出席していただき、衣替えした同窓会へエールを送っていただければと思っております。

今年の総会では声楽家の中川裕子さんにご出演頂く予定です。お子様が守山小の卒業生とのことで出演をOKして下さいました。またこれは下北小の池上校長先生からご紹介いただいた実現するものです。有難うございました。

下北沢小学校同窓会の本格的活動は新校舎完成後になると思われますが、会員皆様の人的、財政的なご支援あつての活動です。今まで同様、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 下北沢小学校同窓会設立総会のお知らせ

四月十六日(日)三時から同窓会総会が行われます。

今回は、東大原小学校と守山小学校が統合され下北沢小学校になつて最初の同窓会総会です。

名前は変わつても私たちの母校、下北沢小学校へご集合ください。第一部では守山小学校同窓会と東大原小学校同窓会が一緒になつて設立総会を行います。第二部では声楽家中川裕子さんを招いての催しです。その後簡単な懇親会を催します。

日時 平成二十九年四月十六日(日)三時から五時半

場所 下北沢小学校体育館(旧守山小学校内)



# 子どもと創る下北沢小学校

下北沢小学校校長 池上京子

平成二十八年四月、下北沢小学校が開校しました。私は、校長の池上京子です。学校を開設することは、私にとっても初めてのことです。不安や心配も多くありました。これまでに、子どもたちは学習を始め、様々な活動に取り組んできました。六年生の姿勢をモデルに頑張り、互いに分かり合い温かい人間関係を育んできました。このことは、保護者の皆様、地域の方々の温かさのお陰と感謝しております。

昨年三月の卒業式では、東大原小と守山小の卒業生に、「四月からは下北沢小学校になります。下北沢小は東大原小と守山小の統合校です。あなたたちの母校です。」と話しました。これまでの卒業生も、また同様に下北沢小を母校と想っていたら、幸いです。

今年、下北沢小の同窓会ができること聞き大変嬉しく思っています。第一回卒業生は、まだ十二歳です。下北沢小の卒業生が、同窓会で活躍できるようにするのは、まだ先ですが、東大原小の同窓会と守山小の同窓生の有志によって、運営されると聞き、安心しました。下北沢小の同窓会と卒業生を見守っていただきたいと思えます。

さて、二一年目の今年、北斗の学び舎の北沢中、北沢小と共に、「キャリア教育」の研究発表をします。今後、多くの職種が無くなったり、変化したりする時代に、自分のよさを知り、自分の生き方をしっかりとつとめるという「キャリア教育」はとても大切です。これは、今年、告示される新学

習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の大きな柱です。学校は、社会と共に、未来に生き、世界で活躍する人材育成のために努力していきます。よろしくお願いたします。



習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の大きな柱です。学校は、社会と共に、未来に生き、世界で活躍する人材育成のために努力していきます。よろしくお願いたします。

## 下北沢小学校同窓会「会則」について

齋藤耕一（三四期生）

下北沢小学校は、平成二十九年三月に第一期の卒業生が誕生します。そして卒業生の誕生に併せて、下北沢小学校同窓会を創ることになりました。同窓会を創るにあたっては会則を制定する必要がありますが、従来あった東大原小学校同窓会の会則をベースにして、下北沢小学校同窓会会則（案）を作成し、四月一六日に開催される下北沢小学校同窓会設立総会に諮り、承認を受けることになりました。会則案は四月一六日の総会で配布致しますが、基本的考え方は会則案の前文に書かれております。

つまり、『平成二十八年四月一日、旧東大原小学校と旧守山小学校が統合され、下北沢小学校が設立された。（中略）元々両校は、大正一五年四月に開設された東京府荏原郡荏原尋常小学校大原分校がルーツであり、その後昭和二年七月に第三荏原尋常小学校として分離独立、児童数の増加に伴い、昭和七年四月に守山尋常小学校が、昭和一二年五月に北澤尋常小学校が設立された。そして昭和一六年四月には第三荏原尋常小学校より東大原国民学校に校名変更されたという歴史がある。従い、下北沢小学校は単なる新設校ではなく、古い伝統を引き継ぐ歴史ある小学校である。今回、下北沢小学校同窓会を組織設立するに際し、下北沢小学校は母校であるという認識に立ち、東大原小学校同窓会と守山小学校同窓会は下北沢小学校同窓会に吸収されるものとする。』

このように、会則案前文に書かれている通り、東大原小学校同窓会は、新設される下北沢

小学校同窓会に吸収されますが、今後は守山小学校同窓会と一緒に、活動していきたいと思っております。

## PTA主催の開校祭り行事に参加して

同窓会報編集委員会 臼井良雄（二七期生）

四月に東大原小学校と守山小学校が統合され、東大原の子どもたちは旧守山小学校の地に設けられた下北沢小学校に移りました。下北沢小学校では開校式、入学式、運動会、学校公開、授業参観、学芸会、開校祭りなどが行われ、従来に比べて大人数になった下北沢小学校の活動を見る機会が沢山ありました。その中で最も印象に残った十二月十日のPTA主催の開校祭りについて書いてみたいと思います。



新校で発足六か月のPTAのお母さんお父さんたちがたくさん集まって、子どもたちに楽器作りなどを指導したり一緒に歌を歌ったりしていました。私が最も興味を持ったのは体育館の入口わきに貼られた、児童たちが学年別に違った色の葉っぱにメモ書きした、下北沢小学校への感想でした。葉っぱ一枚ずつに、子ども一人一人の素朴な思いが書かれていました。一枚一枚読んでいきました。

お名前は省略してご紹介しましょう。

「給食がおいしく毎日の授業が楽しい」「最初が嫌だったけれど、今は新しい友達がたくさんできて、毎日がたのしいです。みんなで協力し合う下北沢小学校大好き。」「休み時間外で遊べることでちがう学年となかよくなれます。」「下北沢小学校は今年できたばかりです。私はもと東大原小学校で、守山小学校の教室は、はじめは慣れなくて大変だったけれど、私は下北沢小学校の人たちは、みんな笑



顔のところが好きです。」「僕は一年生の時は守山小学校で、人数が少なかつたけれど、下北沢小学校になると人数がおおくなり、友達がたくさん増えました。下北沢小学校は楽しい!」「下北沢小学校になってうれしいことは、同年の友達がたくさん増えたことです。四十人が六四人に!」「一四人も仲間が増えました。学校全体としても人数が多くなり、にぎやかでいいよ!」「下北沢小学校の好きなどころ、友達のことなどを考えられるところ。沢山の人(高学年・低学年)と遊ぶ事ができること」「楽しいことは、通う場所が近くて、転校した感じ!授業中は沢山の意見が聞けることが違って、面白いし……いいことばかりです。」「

こんなメモ書きを読んで、子どもの伸びしろの大きさ、成長の姿に感動しました。大人が心配しても子供は、たくましく環境に適応し、それを糧にして成長する。特に今回新校になつて、ストレスに直面しながら、自分たちがこの新しい学校をよくしていくんだという子供たちの気持ちをはつきりと感じられ、今回の統合ということがかえって子供たちの成長を促進させたのかもしれないと感じました。東大原小学校同窓会も守山小学校同窓会と統合され、下北沢小学校同窓会になつても、この子供たちの前向きな気持ちを見習わなくてはいいですね。

### 定着したアートでつなぐプロジェクト

漆畑光一(三四期生)

平成二八年十一月二三日(祝)に「アートでつなぐプロジェクト『北斗』主催の」とあるマンション』というパフォーマンス・カンパニーによる『to R mansion のファンタジックシアター』が北沢中学校の体育館で開催され、地域の子ども(八九名)と多くの大人たち(百十六名)が来場されました。この催しは東大原小学校同窓会も協賛して

毎年秋に地域のシンボルの存在であった東大原小学校体育館で開催して今回が第七回目となりますが、学校統合による下北沢小学校新校舎建設のため今回は北沢中学校の体育館に場所を移しての開催となりました。児童にとっては認知の低さもあつたのかもしれませんが、当日の参加申し込み者も多くあり楽しい一日となりました。

また、会場となつた北沢中学校は近隣住民にとつては災害時避難場所でもあることから防災面からも学校の存在を知る機会にもなりました。

今回の鑑賞作品は、パントマイム、アクロバット、マジック、演劇、オブジェを使つてのおもちゃ箱をひっくり返したようなコメディ・パフォーマンス等が華やかで変幻自在なキヤラクター達による息ぴったりのスピーディーでダイナミックな動き、ユーモアいっぱいシーンの連続で一時間があつという間に過ぎてしまいました。また、おまけの場面では「ハイハイハイ」と多数の子どもが手を挙げて一緒にパントマイムを演じ、それを見ての大人達も大いに楽しんでいました。

最後に、地域の子どもから大人までが一体となつて楽しめるこの催しは今後も継続して開催する予定でございますので皆様のご協力をよろしくお願いたします。また、当日参加した子どもからは「面白くて楽しかった、でも怖かったところもあったよ」、「パントマイムが皆でやれ



てよかった」、大人からも「素晴らしかった」、「全体の雰囲気づくり、音楽と物語構成が上手かった」等々の感想が多数寄せられ大好評でした。定着したアートでつなぐプロジェクト、これからも続けていきいと考えております。

## 同窓会秋の旅行会

神谷良男（三三期生）

平成二八年十月三〇日から三十一日の二泊二日で東大原同窓会、秋の旅行が行われました。参加者は野地会長以下計十三名で鬼怒川温泉に行ってきました。天気に恵まれ、鬼怒川のラインくだりを楽しんだ後「花の宿松や」に宿泊、鬼怒川を見ながらの温泉に浸かり、宴会の後はカラオケに興じました。翌日はグループに分かれて、日光見物に行ったり、ロープウエーに乗って「おさるの山」に行ったりして楽しんできました。紅葉がきれいでした。

## クラス会報告・小学校の思い出

### ますます元気な「メールの会」忘年会！

大竹英一（二七期生）

今年も下北沢に集う東大原小の仲間たち。平成二十八年十二月二十日（火）夕方、下北沢の茶沢通りの「かつ良」（薩摩料理屋）に四名の級友が集まりました。男性九名、女性五名で大方が後期高齢者になり、足腰の多少の故障を持ちながらも皆さん達者で、どちらかというと女性の方が元氣いい。会の台所をしつかり握る香中さん、杉山さん、「かつ良」との折衝を渡邊さん、横浜から稲葉さん、流山から青木さんの遠方からの出席というぐあいです。

思えば、昨年は同じ場所で米寿を迎えられた恩師・宮川（瀬戸）英子先生の叙勲のお祝いをしたところで、あつという間の一年で、まさしく光陰矢の如しです。

卒業時に担任だった関口皓二先生は平成二十九年一月は九十二になられますが、現在八王子・北野のお宅で奥様と静かに暮らしています。

この「メールの会」忘年会は、平成十四年に始まりましたから、私たちが六十一歳の時で、十四年続いています。これからもこの楽しい旧交を温める会は続けたいものです。

《出席者》赤尾、青木、足立、稲葉、臼井、大竹、岡本、多、尾村、香中、杉山、若王子、水口、渡辺

## 三四期生同期会

大岡雅子（三四期生）

平成二八年十一月二六日（土）東大原小学校三四期生（昭和三六年三月卒業）の同期会が開催されました。

一次会は、新しく下北沢小学校となった旧守山小学校の会議室で、お茶とシニーク、リームを食べながら、昔懐かしい仲間と歓談しました。出席者は十名と少なかったのですが、二次会から出席の方を含めると十七名の方々が集まりました。二次会では下北沢駅近くの「湘南倶楽部」で開催しました。例年出席いただいている宮川先生は、今回は都合が悪く、欠席され



湘南倶楽部での34期生同期会

ました。

## 同窓会総会と閉校セレモニー同期会に参加して

塩坂健（三四期生）

二才違いの兄から、三校が統合となり東大原小学校が無くなってしまふ事を聞き、三月二六日の同窓会と一緒に参加しました。

約三五年前に引越し、それ以来の下北沢でした。元の自宅跡は小さな家が二軒建ち、家が道一杯に建ったせい、自分が大きくなったせい、小さい頃よくキャッチボールをした家の前の道路が非常に狭く感じました。

下北沢の商店街も昔の店は殆ど変わり、道幅がこんなに狭かったかと思いました。

東大原小学校の印象は昔の記憶があまりないのですが、変わったことと言えば正面にあった二宮尊徳の像が隅の方に置かれていた事でした。同窓会総会では東大原小学校の卒業生として最後となる今年の卒業生が約四〇名と聞き、我々団塊の世代の二〇〇名以上いた時代との違いを実感しました。

二週間後の四月十日の閉校のセレモニーにも参加しました。小学生が描いた校舎内の壁画を楽しく拝見しました。校舎が無くなるのは現役の小學生にとっては大変感慨深いものと思います。

閉校のセレモニーの後、同期会を十名程でやりました。幼馴染というのは不思議なもので、会って話をしていくうちに昔の事を思い出して楽しいひと時を過ごしました。我々は六七、六八歳。仕事も一線を退いている人が多いと思いますが、皆さん地域の活動をはじめいろいろ事に頑張っている話を聞き、昨年七月より毎日が日曜日の私としては大変刺激を受けました。

飲み会の後のカラオケも共通の歌が多いので大いに盛り上がりました。

後日小学校時代を思い出したのをきっかけに当時の卒業アルバム、通信簿を探し出し見てみ

ました。白黒の小さな写真で皆の小さい時の面影を再確認しました。通信簿は殆ど三と四でした。

体格は一年生(身長一一四・一cm、体重一八・五kg)六年生(身長一四三・二cm、体重三五・二kg)と改めて当時は小さかった事に驚きました。

東大原小学校が無くなってしまふ事は大変寂しい事ですが、この事をきっかけに下北沢に何十年ぶりに来られた事、そして何より幼馴染の方々に会えた事に感謝しております。今後は下北沢小学校となりますが、東大原小学校の伝統を受け継ぎ更に飛躍して頂きたく祈念致します。

### 涙が出た久しぶりのクラス会

小清水和子(三二期生)

わが母校が統合され、東大原小学校の名前がなくなつて新校になることが決まり、約十年ぶりにクラス会を開催しなければと思ひました。住所の確認などの面倒なことを神田啓子さんをお願いして、四月十日の閉校記念イベントの日に合わせて決定しました。何人くらい集まるか、心配でしたが、九名の参加者が集まりました。

当日一人一人のお顔を拝見しお元気な様子が伺えたのでひと安心。でも私は同窓会役員なので閉校イベントの仕事もあり、ゆっくりお話をする事が出来ず残念でした。

正面から見た校舎・校庭・周りの木々ひとつひとつが、走馬灯のように子供のころに戻つて思ひ出され、一瞬涙が出てき寂しさがこみ上げてきました。

他の人たちは教室で何を話していたのでしょうか？私と同じように思ひ出に浸っていたのでしょうか？学校を出るとき、学校最後の思い出として写真を正門の前で一枚だけ撮り、残すことにしました。

その後食事会では数々の思ひ出話が出、盛

り上がりました。

今は東大原小学校から下北沢小学校に統合されましたが、私たちにとっては母校東大原で、忘れることなくいつまでも心の中に残つていく事を信じています。写真をお送りしたところ、参加者の皆さまからぜひまたクラス会を開いてくださいというお手紙がありました。次回もまた元気な姿で下北沢小学校に集まり、開催したいと思ひました。

当時の担任くださった先生方お二人が亡くなられてしまったのは残念でしたが、大変意義あるクラス会が催されたとおもいました。

### 昭和三四年卒業六年四組の会

宮田維久子(三二期生)

平成二八年十一月十二日、久しぶりのクラス会をといたことになり、神田淡路町の小田原「魚国」に九名で集まりました。ずいぶん面影が変わりました。

変貌ぶりを写真でご覧になつてください。



32期生6年3組の会



32期生6年4組の会

### 下北沢へのこだわり

飯島富士男(三二期生)

一九五三年(昭和二八年)四月、私たちを迎えた校門には二宮金次郎像が迎えてくれた。授業は校舎が間に合わず「二部授業からのスタートであった。それから六〇年余り。更地となった跡を見て「東大原小から下北沢小」を想像してみるが・・・。

かつて学校から東へ少し下がった付近には「下北沢村」があつたと記されている。小田急線の敷設が一九二三年に始まり一九二七の開業から「下北沢」駅はあるとMikidewaは伝えていたが「下北沢村」はすでに消えていた。地名は「北沢」となり「下北沢」は駅名だけが残つた。現在はマスコミ、来訪者などの「下北」の通称で、「全国区」になった。それでも地元の方々は「キタザワ」と言い「下北」と呼ばれると『青森か!』と突っ込みをいれていた。更に訪れた方々は「上北沢があるから下北沢(をつくつた)?」と。そうではないから「シモキタ」と言わずに「キタザワ」に拘っていた、と思ひたい。

現実には、「成徳学園」も「下北沢」を付け、マスコミも「下北」を連呼してやまない。それなら「下北沢小学校」だ!?

三年後、否もう二年後三校合併して新しい「下北沢小学校」が誕生する。呼称はなんと呼ばれるだろう。「下北小」? 「下小」? 分かりやすく「北小」? 守山小の方々は「キタザワ」と言い直し、『青森か!』と突っ込ん



2016年12月

だ方々は、どう感じるか？

因みに、かつて図書館で世田谷区の歴史書（だったか）には「荏原郡・東大原」という地域名として記載されていたことを記憶している。それだけだ。

## 小学校時代の思い出 故郷はどこにある？

柴野利彦（三三期生）

東京の下北沢生まれの私には、故郷が無い、と長いあいだ思っていた。お盆で帰省する人たちを横目で見ながら、「私の故郷はこの地球」なんて、うそぶいていたものだ。先日、「八幡様のお祭りを見に行かないか」とかつての同級生が誘ってくれた。

私の子供時代の記憶の中には、遠く八幡様の境内で開かれたお祭りの様子が走馬燈のように駆けめぐることが多く、いつか再び訪れてみたいと思いつながらなかなか重い腰を上げることがなかった。そのチャンスがやってきたのである。七十歳に手が届く直前の竹馬の友四人でぶらぶらと歩き、あまりにも変わってしまった街の様子に驚きながら、祭り囃しが心地よく耳に響いてきた。

お祭りに陰影はつきものだと思うのだが、香具師が排除された祭りは無味無臭の胡椒をふりかけたかのように味気ない。子供心にもいなせな職の人たちの「め」組と染められたハッピー姿が粹に映ったものだし、お酒が入った男達の喧嘩も威勢が良かった。

簡素なボール紙に色鉛筆で書かれた「当たり、外れの枠を指して竹の棒を指で回すゲームは、地面の上に粗末な台を置いただけの店のオヤジがやると当たるのに、私はお小遣いを全部つぎ込んで何回もやったのだが、必ず外れるのだった。長じてからそれは磁石か何かでインキキしているらしいということを知るのだが、そんなことを含めてもお祭りには浮かれる要素が沢山あった。こ褒美にもらえるお菓子につられて子供神輿を担いだのも、いい思い出である。

東大原小学校の同級生たちがお寿司屋に十五人も集まり、かなり酔いが回った頃、大きな御神輿がやってきた。かつては威勢のいい男衆がお酒の臭いをプンプンとさせながら担いでいたのに、今では髪をアップにしたうなじの可愛い女性たちがたくさん交じっている。「ワッショイワッショイ」とかけ声がかかり、御神輿を取り巻く沢山の観客たちもリズムよく体を揺らしながら手を打ち、口々に声をかけている。いつの間にか、私もその中の一員となり、不覚にも感動している自分に驚いた。この町で生まれ育ったことを突如として思い出したのだ。

私の故郷は下北沢である、と今なら断言できる。生まれて十歳までしかいなかったとはいえ、心の奥深いところに潜んでいたのは、下北沢で育ったイタズラ坊主としての日々であった。突然、すべてが懐かしくなり、自分のルーツを再発見したような喜びが静かな波となって押し寄せてくる祭りの夜だった。

## 七三年前・集団疎開の思い出

高木勝彦（十八期生）

傘寿を迎えてから早や四年が過ぎて今年八五歳になった。昭和一桁生まれは育ち盛りに満足なものを食べていないので長生き出来ないなどと言われた時期があったように思うが、よくぞここまで生きて来られたものだと思う。

碌なものを食べていない時期と言うとすぐに思い出すのが小学校時代の集団疎開だ。先の大戦の末期には東京では敵機による空襲が必至だということで、縁故先の無い児童は学校が決めた地方に集団で疎開することが決められた。昭和一九年の夏、私が小学六年生のことである。

私の生まれは世田谷区の北東、渋谷区と杉並区の境に位置する大原町で、今では環状七号線の大原交差点で知られている。昭和七年に生まれて十四年に下北沢に近い「第三荏原尋常小学校」に

入学した。昭和十六年の三年生の春、学校の名前が「東大原国民学校」と変わって、校庭には奉安殿という社のようなものが建てられた。

天皇皇后の御真影が奉られ、教育勅語が奉納されていて、登校時には礼拝をさせられた記憶がある。この年の十二月に日本は太平洋戦争に突入した。

六年生になった昭和十九年夏八月、いよいよ集団疎開ということになり三年生から六年生までの学童が信州は松本郊外の浅間温泉に送り込まれることになった。覚えているのは新宿駅から中央線の列車に乗せられて修学旅行にでも行くような気分ワイワイはしゃぎながら行ったことである。松本駅からは路面電車が浅間温泉まで走っていて、屋根にお椀をかぶせて並べたような格好だったので、我々は以来この電車を「お椀電車」と呼んで親しんだ。（この電鉄は昭和四〇年代に廃線になったとのこと。）

浅間温泉では幾つかの温泉旅館に分宿させられたが、我々の組は「榮の湯」という旅館に割り振られた。戦争がたけなわとなって旅館街も営業どころではなく、疎開児童受入れとなったのだから。

旅館での生活が始まって早速当惑したのは食事の貧しいことで、来る日も来る日も食卓は醤油の汁に小麦粉の団子が入った所謂「すいとん」で、汁には具といったものは一切入っていなかったように思う。団子の大小を巡って輪番の炊事当番と取っ組み合いの喧嘩をする子がいたりして大変だった。そんな食生活では当然年らすぐさま全員栄養失調に陥り、便所で大便が緑がかった色に変わったのでまた吃驚。また、折角温泉に来たと言うのに、入浴は短時間に大勢を入れる為、寮母さんの号令「下」はい、入って；はい、出て」十分位のうちに入浴終了で、温まるだけで精一杯、体を洗うことなど出来なかった。

松本郊外には東部五〇連隊があつて、週末には

兵隊たちが入浴に来てシラミを落とすとしていく。そのシラミが我々にも取りついて痒くてたまらないから、入浴後は着物についたシラミ退治で大わらわだった。冬に入っては、足の腫に大きなひび割れが出来て痛いで、寮母さんが貝殻に入った膏薬を火箸で溶かして塗り込んでくれたのもこの時間帯である。

学校は「東本郷国民学校」に間借りして毎日通った。徒歩で十分か十五分のところだった。田舎はどこも排他的だから、地元生徒からは「東京っぺ、東京っぺ」と言われて疎外視されたが、暴力を振るわれるようなことはなかった。校庭に一本の大きな棗(ナツメ)の木があって、疎開児童はその実を競って口にしていたが、地元の子たちは見向きもしなかった。飢えていたので物凄く美味しかったが、今食べたらどんな味がするだろうか。

夏には、校庭に整列して英霊を迎える行事に参加させられたが、疎開児童の列からは日射病でバタバタ倒れるものが続出した。今で言う熱中症であるが、既にそれほど栄養状態は悪化していた。冬には、講堂で整列していると足の小さな掃き出し口から痛烈に寒い風が吹き込んできて、身震いをしたものである。松本は周囲を北アルプスなどに囲まれた盆地なので、そのように夏暑く冬は寒さの厳しいところであった。学校の帰りには農家の庭先に葎干してある大根の葉っぱや、ミカンの皮を無断で失敬して帰り、夜炬燵の火で炙っては皆で食べた。空腹を満たすために食べられそうなものは何でも口にしましたものである。

それでも集団疎開は苦しいことばかりではなく、たまには楽しいこともあった。浅間温泉は美ヶ原高原の登り口に位置していて登山道が幾つもあったから、冬雪が積もると旅館の作男が薪で作ってくれた俄か櫓を持ち出して日がな一日滑って遊んだりしたが、とても楽しかった。また夏には東部五〇連隊の兵営訪問があり、一同

歩調をとって「頭右(かしらみぎ)」しつづつ営門に入り、兵隊たちの訓練を見学したり、酒保に立ち寄って「おのろけ豆」を貰って大喜びをした。疎開中に一度だけ母親が面会に来たので、特別に外出を許されて松本市内の蕎麦屋で食べさせてもらったお蕎麦の美味かったことなど思い出す。

そんな疎開生活も、翌二十年二月末には、我々六年生は中学進学のため東京に帰ることになって終了した。僅か六か月半らずいぶん長い間いたように思われた。(五年生以下は四月になってから、松本も危ないということ、下伊那郡に再疎開して終戦を迎えることになったようだ。)

東京に帰った日は前日の雪で道がぬかるんでいた。久しぶりに帰った我が家は懐かしく、母親が作ってくれた御萩が美味しかったので、むやみに食べたらずら下痢症状をおこしてしまった。碌なものを食べていなかったのも、胃や腸の働きが極度に衰えていたのだから。

皮肉なことに、疎開中は東京に空襲はなかったのに、帰ってきたらいきなり三月十日があのだ町大空襲だった。我が家からは新宿方面が赤々と燃え盛り、その上空をB29が焼夷弾を落としながら飛んでいるのがよく見えた。然しそうこうするうち、今度は五月二五日に山の手が空襲に見舞われることになり、我が家はリヤカーに家財道具を積んで井の頭街道を永福町から吉祥寺方面に向かって必死に逃げた。幸いなことに我が家は焼けずに残って、八月の終戦を迎えることとなる。

其の後迎えた戦後の食糧事情も酷かったが、疎開当時のひもじさは育ち盛りだったから一層身に染みている。

傘寿を過ぎて思い出すこと多々であるが、遠い昔、集団疎開で痛烈に腹を空かせたことは一生忘れ得ぬ思い出として心に残る出来事である。

## 編集後記

母校にも同窓会にも激動の年だった平成二八年も無事に過ぎ去り、天気晴朗のお正月、昨年一年を振り返りながら原稿を書いています。一番印象に残ったのは、同窓会の将来を一緒に考えていただけの素晴らしい守山小学校同窓生の方々との出会えたこと。そして二番目は開校祭りで出会った子供たちの健気な意見を讀んだことでした。素晴らしい保護者、素晴らしい学校、素晴らしい子供たち、そんな人々が集うこの地域で生きる嬉しさを感じながら。同窓会もそのなかで共生して楽しませて頂こうと、そしてこの会が末永く子ども達に引き継がれていくことを願っています。(白井)

## 同窓会への連絡、問い合わせ、寄稿の送付、送金の方法について

現在の事務局の住所は左記のとおりです。

恐れ入りますが、連絡は郵便かFAXまたはメールで御願致します。

メールの場合は事務局のみならず会長乃至は理事数名に届きますので、迅速な対応が可能です。

郵便番号 一五五・〇〇三一  
世田谷区北沢二丁目三五・九  
小清水ビル5F  
東大原小学校同窓会事務局  
FAX 03-5454-5356  
Eメール dosokai@higashihara.jp

本同窓会は政治・宗教・思想について中立を守ります。

